



全労連青年部ニュース

# YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ <http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>



## 青年春闘交流集会オンライン開催!

「コロナだから仕方ない」で諦めない! 「呪いの言葉」を乗り越えて  
盛り上げよう! 春闘、変えよう! 社会を!!



21春闘団結してガンパロー! O(´・▽・´)

全労連青年部は2月20日に青年春闘交流集会をオンラインで開催し、7単産20地方から71名が参加しました。もともと存在した社会構造の問題がコロナ禍の下で深刻化し、認知されやすくなりました。しかし、まだ足に絡まる「コロナだから仕方ない」という『呪いの言葉』を克服するために学習し、青年一人ひとりがどのように職場や社会を変えるのか、考え合う集会となりました。

## 「仕方がない」であきらめず、仲間とともに春闘をたたかおう！

稲葉美奈子書記長の司会で集会はスタートしました。はじめに森慧佑書記次長が開会あいさつとして「この1年は各職場で様々な問題や悩みを抱え、改めて労働組合の意義が確認されるとともに社会の歪みが明らかになった。世の中にはネガティブな言葉があふれているが、『コロナだから仕方がない』と活動自体をあきらめるのではなく、自分たちの思いを伝え、仲間を励まし、ともに前に進むのも言葉の力。この集会で何か1つ感じたことや学んだことを持ち帰り、現場でともに活動する仲間と一步を踏み出すきっかけにしてほしい」と参加者に呼びかけました。

続いて笹本育子副部長が春闘期の課題と情勢を報告。行動提起として「『コロナ禍だから仕方がない』の呪いの言葉を乗り越えて、みんなで『変える』春闘にしよう」「青年が元気に組合活動をする姿を見せて春闘を盛り上げよう！」「春闘の取り組みを通じて、労働組合の仲間を増やそう！」の3つを重点に地域や職場の春闘に積極的に参加することを呼びかけました。

### 青年による特別報告 今こそ声をあげる私たち

首都圏青年ユニオン 原田仁希さん



特別報告として2名の青年が発言しました。首都圏青年ユニオンの原田仁希さんは「コロナ禍により労働相談が圧倒的に増えた。学生や主婦パートのシフト労働者に被害が広がる中、労働相談で当事者を組織化。団体交渉やメディアを活用して実態を告発することで問題を“社会化”し、休業手当を支払わせ、国へも制度・政策を要求してきた」と報告。「たたかう労働者を可視化し、労働組合の姿を見せることで、組織も拡大して飛躍した。コロナ禍は社会のピンチをもたらしているがユニオンにとってはチャンス。引き続き頑張りたい」と決意を述べました。

#### 【コロナ労働相談の主な内容】

- ・相談の6〜7割が休業手当問題
  - そのほとんどが非正規労働者
  - ①休業手当不払い ②休業手当低すぎる(労基法二六条・平均賃金6割より低い) ③休業手当非正規差別 ④学生アルバイト休業手当不払い
  - ⑤シフト労働者休業手当でない
  - ・その他 感染対策不十分、解雇・雇止めなど
- ↓シフト制労働者が大きな被害を受けている実態が浮き彫りに

愛知県医労連 柴田このかさん



看護師として働く愛知県医労連の柴田このかさんは、「コロナ禍によって、医療現場が抱えていた人手不足、長時間労働などの問題が深刻化した。現場がひっ迫しているため、コロナではない患者さんにもしわ寄せが起きている。感染しないよう気を張り、防護服の中汗だくになりながらの作業。専門分野以外の業務による残業も増えたのに、赤字経営を理由にボーナスカットが行われている」と実態を報告しました。「しかし、病院の赤字経営や不十分な感染防止対策、医療従事者の疲弊は、個々の病院の努力だけでは解決しない。国の制度が変わらなければ、現状は打開できない。コロナ禍だからこそ、組合活動を通して自分たちを発信していく。世の中を巻き込み、動かしていくことが必要。いま医療現場だけがとりわけ大変なのではなく、コロナ禍のもとでは皆が何かしらの困難や問題を抱えている。ただ、それが周りから見えやすいことなのか、当事者でしか分からないことなのか、その違い。それぞれが自分たちの困難に向き合い、声をあげて、みんなで前進していける春闘にしたい」と語りました。

## 支配の言葉に惑わされず、行動した人を認める言葉をかけあおう



法政大学キャリアデザイン学部教授・上西充子先生に『呪いの言葉を乗り越えよう』と題して講演していただきました。上西先生は「世の中には、不都合な本音を都合よく隠す『呪いの言葉』が溢れている。もっともらしく聞こえたとしても、問題は自分にあるのではなく相手にあるという

ことを示すことが大事」と話しました。「もし『コロナだから仕方ない』と言われたら、あなたなら何と返しますか？」という問いかけに、オンラインチャットを通じて参加者から切り返しの言葉が次々と飛び出してきました。

また、相手の思考を支配する『呪いの言葉』が存在する一方、相手の行いを丁寧にみて肯定する『灯火の言葉』も存在すると話し、「自分が支えられてきた言葉がきっとあるはず。例えばありがとうと言うとき、具体的に何をしてくれたか、どう思ったかを伝える事を組合活動でも意識してみしてほしい。それがエネルギーになる」と語りかけました。

最後に、『呪いの言葉』と対峙すると自分の要求がわがままに感じてしまうかも知れないが、その呪縛から抜け出す事が第一歩。そして呪縛から抜け出した先のイメージを共有する事が大切」とまとめました。

21 「コロナだから仕方ない」

私の問題ではなく「そうかもしれませんが…」	今が1%のエリートからお金を取る時ですよ！
あなたの問題ですよ	仕方ないといえるデータは存在してるんですか？そして、経営努力は具体的にどこまでやったのですか

コロナだからこそ、皆で協力してしんどい時期を乗り越えるべき

それならこの職場からスタッフが居なくなるのも仕方ないですね

災害に備えていなかった責任は感じてないんですか

▲呪いの言葉に対して、約30人からユニークな切り返しが飛び出してきました。

## 要求を確信に。仲間とともに奮闘しよう！

弓田盛樹書記次長は閉会あいさつで「コロナの中どう闘っていくのか、糸口が見えたと思う。直面している問題を現場から訴え、労働組合が闘っている姿を見せていくことが政治をも動かしていく力になるということを確認してほしい。今日感じたこと、学んだことを皆さんの職場で実践として活かしてほしい」と呼びかけました。最後に、保科雄治部長の「呪いの言葉を克服し、21春闘で要求実現、安心して暮らせる社会をつくるために、団結して頑張ろう！」のかけ声による団結ガンバローで集会をしめくくりました。

## 参加者の感想

特別報告を聞いて、声を届けることの大切さとそれを実現できる労働組合の存在意義を実感した。

“嫌なら仕事を辞めればいい”は何か違う…と思っていたが、講演を聞いて思考の整理ができた。

分散交流でのプラカードづくりは童心に帰ったようで楽しかった。

首都圏青年ユニオンの話を聞いて、自分が組合加入の際、弱い立場の人を支える姿に共感したことを思い出し励みになった。

コロナ禍でなかなか外に出る機会がないなか、現場からの貴重な話が聞けてよかった。

みんなで集まって団結する大切さを感じた！

医療現場が大変ななか、経営は赤字になるというねじれ。現場の声を引き続き訴えていく必要があると感じた。

もっと宣伝方法を工夫して、まだ繋がっていない労働者を組合で支えたいと思った。

オンライン上の交流ははじめは緊張したが、率直に話すことができた。話し合うことで前向きになれた！

上西先生の講演は今からすぐに活用できる話でよかった！  
今日参加できなかった仲間にも共有したい。

# 分散交流の様子

各グループに分かれて集会の感想、職場の要求を共有しました。最後に、各々が21春闘で実現したいことを持ち寄り、みんなで1つのプラカードをつくりました！



## 「ありがとう」を分解してみる！！

適正な勤務時間を  
専従に頼らない！  
プレイボード！  
夜勤無理！  
いかにおすし！！



2021春闘で私たちは…

労働者個人の使命感に頼らず

誰もが全国で安心して働ける労働条件を

つくるために仲間とともに世論・政治・社会に

前向きな言葉で働きかけるぞ！！



自己責任の社会から連帯の社会に変える、労働組合もそうでない人も、みんなの力で政治をかえて、あったかい社会をつくる春闘にしよう！！

声を聞いてエンパワしようぞ！

# Fight

#子育て緊急事態宣言で休業補償を勝ち取る！  
コロナの減収を労働者に押し付けるな！頑張っている分、賃金も一時金も人も増やせ！

新たに職場に加わるなかまをはじめ、すべてのなかまの労働組合への結集を粘り強く呼びかけると同時に、「ひとり一行動」を合言葉に行動を実践し、組合運動の「見える化」を力強くすすめる



## 私たちは21春闘で

ベースアップと、人手不足解消を要求し  
心身ともにゆとりのある環境を勝ち取る。



## 3班

★ 私たちは21春闘で 賃金大幅引き上げ実現したい！ ★

コロナ禍で業務が増えている。(消毒等)

忙しいのに残業できない...サービス残業...してる。。テレワークあるある...

数字ばかりで経営改善ばかり言われる。  
個人加盟組合の為、会社がバラバラ、住まいもバラバラなので  
最賃闘争がメイン

春闘は賃金アップであるという前提を忘れてはいけない

いつも難しい

春闘要求は期末一時金を勝ち取りたい。  
青年部企画を盛り上げるために最賃体験した。

青年部として動画を作成してPRしている。

リモートでつながる機会が欲しい。

ZOOMだったら全国とつながれる！





Zoomの「ホワイトボード機能」を使ってプラカードをつくりました。手書き文字も味があります。

## 私たちは2021年春闘をこう闘います！

最低賃金の引き上げで、正規・非正規問わずすべての労働者の賃上げを実現します！

加盟組織全てがベア獲得  
医療介護は社会に必要な仕事であることをアピールします。

正規・非正規職員間の同一価値労働・同一賃金・待遇の実現に努力します。

公共交通機関を利用できない職場に通勤手当満額支給！！

ボーナスカットを心配せずに働ける職場をつかっていく！

患者さんも職員も安心の医療体制を  
医療従事者がやめられない職場をめざします



★ 要求をあきらめない。

→ 人手不足なんとかして！

国にもっと予算をつけてほしい

コロナを理由とした人員削減・賃下げ反対！！

格差は差別！！

賃金上げろっ！！

★ 最賃全国一律、さっさとせえ！

★ 医療・福祉現場が安全に働ける環境を！

人的・物的体制整備の強化を！

非正規雇用を守れ！！！！

★ コロナ対策をちゃんとして。



## お知らせ

●今年も「若者の要求アピール大作戦 in メーカー」開催します！ぜひご協力をお願いします (^\_^)  
\*プラカードが新しくなりました↓からダウンロードできます  
<https://bit.ly/3wjXrxh>  
写真・動画は  
[mayday@zenroren.gr.jp](mailto:mayday@zenroren.gr.jp)  
にお送りください！

(詳細は全労連青年部事務局までお問合せください)

●5/15(土)ユニアカ開催します！  
(オンラインの予定)  
詳細は追って連絡します。

★青年のとりくみ・ニュースを  
[youth@zenroren.gr.jp](mailto:youth@zenroren.gr.jp)  
までお寄せください (^\_^)

全労連青年部 事務局 担当：森  
TEL：03-5842-5611



雇い止めを撤回  
いのちをまもれ！  
思い合う職場作り  
労働組合をみんなの居場所にする  
地域を守る  
安心を守る  
を実現するために  
がんばります！！



自分ななか勝手に解決するのではなく、周りに発信するようにする  
みんなで団結して行動していこう！！  
社会的弱者という言葉をやめよう！  
～だからしょうがない～  
始業前残業をとれるようにしてほしい  
八幡  
↑これ春闘で要求します！  
私たちが実現したい  
21春闘でこれらを  
みんなが平和で生活できる世界になってほしい  
大堀 不公平をなくす  
知識や人の事情を学ぼう  
労働は週40時間1日8時間までを  
当たり前にする 渡辺 仕事が完成しない責任は裁量ある人にある！  
多様性が認められる世の中になりたい！ 森  
自分できちんと決めない！ 同じ境遇の人の声を聴く！ 知ってもらおう！  
あと、無意味な昇給のみ残業時間制度をやめる。ごまかさないと全額出せ  
⇒周りの人の呪いの言葉を呪いを解く